

# 宝本エピソード

鹿児島県立図書館 企画展示「宝本エピソード展」より

展示期間：平成29年10月26日（水）～平成29年11月23日（木）

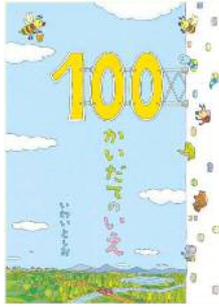
募集期間：平成29年6月20日（火）～平成29年9月6日（水）

募集対象：県民一般（幼稚園、学校、公立図書館を通じて募集）

（一般応募の部より）

母		子	<p>【エピソード】</p> <p>息子は、動物が大好きなので、いろいろな動物の親子が出てくるこの絵本がお気に入りです。赤ちゃんが自分の母親を探しに行くお話で、途中で会う動物が自分の子に「うまれてきてくれてありがとう」とそれぞれの愛情表現をします。私が読み聞かせをしながら、そのとおりに息子に真似をすると、とても喜びます。最後に、赤ちゃんが自分のお母さんを見つけて「うまれてきてくれてありがとう」と言う所で息子の名前を付けて読むとまた喜んでくれます。大人になっても覚えていてくれると嬉しいです。</p>
母		子	<p>【エピソード】</p> <p>以前、夫の仕事の関係で甑島に住んでいた頃、図書館も近くになく、本屋もない中で「こどものとも」を定期購読し、毎月どんな本が届くか楽しみにしていました。この「サンドイッチ サンドイッチ」が届いた時は、ページをめくる度においしそうなサンドイッチが作られていく様子に親子でワクワクしていました。読むと、サンドイッチを作って公園に持って行って食べていた記憶がよみがえります。すでに成長した息子たちですが、野菜やハム・チーズに卵をはさんだサンドイッチが今でも大好きです。</p>
母		子	<p>【エピソード】</p> <p>この本は、0歳の誕生日プレゼントとして長男に贈った本です。私も家族も息子が生まれてくるのが楽しみで、待ち遠しい気持ちでいっぱいだった時に、この本と出会い、おなかの中にいる息子へ毎晩読み聞かせをしました。そして、その後生まれた長女にも何度も読みました。みんながあなたの誕生を心待ちにしていたこと、あなたがいるだけで幸せだということ子どもたちへ心から伝え続けたい・・・だからこそ、この本は我が家の宝本です。</p>

母



子

書名 100かいだてのいえ  
著者名 いわいとしお / 作  
出版社名 偕成社

【エピソード】

長男が2歳の頃、お友達がこの本を持っていて、10かいごとに現れる動物。また数を一緒に数えるのも楽しかった様子で、目をキラキラさせているのが私も嬉しくて、早速本屋へ走ったのを覚えています。

7歳になった息子は、今ではトチくんがいろいろな動物と友達になって遊んだり、お手伝いをして楽しい事などを、5歳の弟にも読んで教えています。このシリーズはいくつかありますが、今でも息子たちが「読んで！」と持ってくるのは「100かいだてのいえ」で、私たち家族の大好きな宝本の一冊です。

わたし



書名 にんじんとごぼうとだいこん  
著者名 日本民話  
和歌山静子 / 絵  
出版社名 鈴木出版

【エピソード】

この本は、娘たちが保育園の年長・年中の時に買った本です。

初めて家族で本屋へ行き、お父さんがぜひ娘たちに読ませてあげたいと選びました。まず、本を読めるようになったことと、この本を読んだことでお風呂の時間をもっと楽しんでもらおうという気持ちからでした。親子で誰がにんじんで誰がごぼう、だいこんかと言い合いながら、楽しく読んだことをとてもよく覚えています。これから、下の兄弟にも家族で読み聞かせをしていきたい我が家の宝本です。

わたし



弟たち

書名 バスでおでかけ  
著者名 間瀬なおかた / 作・絵  
出版社名 ひさかたチャイルド

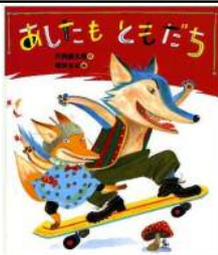
【エピソード】

ぼくが、弟たちに読んだ本です。

弟たちは、初めてこの本を読んだとき、とても楽しそうでした。特に、バスでお出かけする場面と最後のページにあるサンタクロースをさがすゲームには、きょう味しんしんでした。たくさん読んであげたので、ぼくは暗記してしまいました。

ニコニコする弟たちの顔も、ぼくの宝物です。

わたし



書名 あしたもともだち  
著者名 内田麟太郎 / 作  
降矢なな / 絵  
出版社名 偕成社

【エピソード】

この本は、どんなに強い人でも困っている人がいたら、助けて元気になるまでかんばんをするという、人を見捨てずに他人の気持ちも考えることの大切さを私に教えてくれた本です。

どんなに仲のよい友達でも、困っている人を助ける人は、とても親切で思いやりのある心をもっている人だと思いました。私の友達はこの人と同じで、困っている人を見かけるとすぐに助けることのできる友達です。この本は困っている人を見捨てずに、どんどん助けていくという気持ちを私に教えてくれた本です。

わたし



友達

【エピソード】



この本は、ぼくに、友達の大切さを教えてくれました。

ぼくは、友達とけんかをしてしまったときには、いつの間にか仲直りをしている時もあります。

「ふたりはともだち」は、二人の友情が書かれています。友達がきずついているときは、ぼくがはげましてあげないといけないなと思いました。

書名 ふたりはともだち

著者名 アーノルド・ローベル / 作

三木卓 / 訳

出版社名 文化出版局

母



子

【エピソード】



私がこの本を宝本にしたのは、お母さんが小学生のころに好きだった本で、家の本だに大切にしまっており、私も好きな本なので、私とお母さんの宝本にしました。

私が選んだ「ふしぎなかぎばあさん」という宝本は、かぎをなくした男の子がたくさんのかぎを持った鍵ばあさんという人に出会って、最後はかぎばあさんの姿がどこかに消えるという少し不思議なお話です。

私は、まだ「ふしぎなかぎばあさん」しか読んだことがありません。他のかぎばあさんシリーズも読んでみたいです。

書名 ふしぎなかぎばあさん

著者名 手島悠介 / 作

岡本颯子 / 絵

出版社名 岩崎書店

母



子

【エピソード】



わたしが小さいころ、お母さんにこの本をよく読んでもらいました。

お母さんがこの本を読んでいるとき、わたしは、体を上下にうごかしていたそうです。ほかには、はらぺこあおむしがくだものなどを食べるときに、わたしはすきな食べものを言っていたそうです。

思い出がつまっている本なので、わたしとお母さんの宝本です。

書名 はらぺこあおむし

エリック＝カール / さく

著者名 もりひさし / やく

出版社名 偕成社

母



わたし

【エピソード】



私は、赤ちゃんのころ、泣き虫でした。だっこは、お母さんじゃないと泣いていました。そんな時、お母さんがこの本を読んでくれていたそうです。この本のおかげで、笑顔になっていたそうです。

お母さんは、どこでも読めるように小さな本を持ち歩いていました。そのありがたさを知ると、心がぼかぼかしました。うれしかったです。

この本は、愛がつまった宝本です。

書名 ねずみくんのチョコッキ

著者名 なかえよしを / 作

上野紀子 / 絵

出版社名 ポプラ社

母



わたし

書名 ふまんがあります  
著者名 ヨニタケシンスケ / 作・絵  
出版社名 PHP研究所

【エピソード】

この本は、わたしとお母さんに家族の気持ちについて教えてくれた本です。  
わたしとお母さんがけんかをしているときも、この本を二人で読めば、かならず仲直りができました。この本を読むと、おたがいの思っていることが、分かったような気がします。  
家族のことをこれからも大切にしていきたいです。

母



子

書名 スイミー  
著者名 レオ・レオニ / 作  
谷川俊太郎 / 訳  
出版社名 好学社

【エピソード】

この本との出会いは、わたしが保育園児の頃です。二人の兄が学校で読んだ影響と、スイミーの劇を見たことがきっかけです。  
この本は、何度読んでも多くの感動をもらいます。スイミーを自分に例えてみると、家族や友達の大切さを深く感じます。  
家族で紙芝居をしたこともあるのですが、この本のおかげで家族の仲がもっと深まったということもあり、宝本になりました。  
スイミーは、自分が大人になっても読みたい本だし、たくさんの方々に読んでほしい一冊でもあります。

母



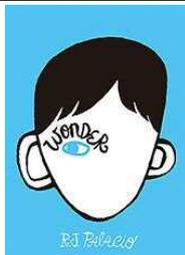
子

書名 しろくまちゃんのほっとけーき  
著者名 わかやまけん / 絵  
森比左志 / 文  
出版社名 こぐま社

【エピソード】

小さいころ、夜、寝る前や幼稚園から帰ってきたあとなどに、母に読んでもらっていました。母に読んでもらうことが、とても楽しみだったことを思い出しました。  
しろくまちゃんやこぐまちゃんの絵がかわいいで、とても好きということと、ホットケーキの焼きかげんが「ぶつぶつ」や「ふくふく」など、表し方がおもしろいということの二つがこの絵本を好きになる理由だと思います。  
だから私は、この絵本が宝本です。

わたし



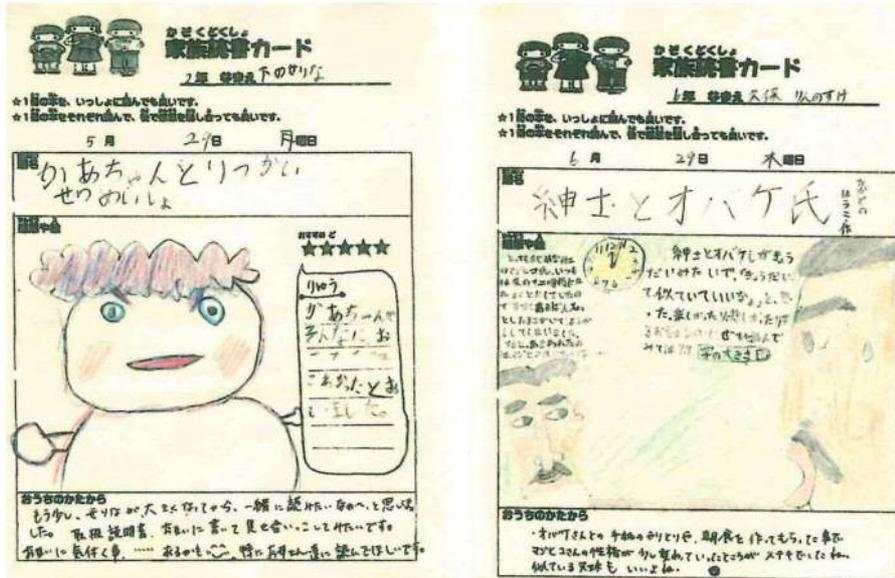
わたし

書名 WONDER  
著者名 R. J. パラシオ / 作  
中井はるの / 訳  
出版社名 ほるぷ出版

【エピソード】

「Wonderーワンダー」、このタイトルを見た時、どんな物語なのだろうと気になり、手にとってみました。オーガストという主人公の視点はもちろん、姉や友人などの視点で物語を展開していくところが面白かったです。  
また、様々な視点からみることで、私が友人とけんかしてしまった時や、悩んでいた時の感情と重なり、私自身の考え方を見直すことができた一冊です。自分自身が思っている以上に友人は自分のことを考えてくれていたりする・・たくさんの考えを改めて感じることでできた私にとっての宝本です。

(団体取組の部より)



上市来小学校では、「毎月23日は『子どもといっしょに読書の日』」に合わせて、23日前後の週末を「家族読書の日」として、家族で読書に親しむ活動を実施しています。子どもたちが読んだ本を家族読書カードに記録し、保護者からもコメントを書いてもらいます。1冊の本を一緒に読んだり、1冊の本をそれぞれ読んで、後で感想を話し合ったりなど家族で様々ですが、家族で同じ本を読むことで本についての会話が増えるなど、本を通じて家族の交流が図れているようです。

家族読書カードは提出し、各学年2人ずつ掲示しています。掲示することでカードに書いてある本に興味を示し、探しに来て借りたり、子どもたちで読んだ本の話をしたりするなど読書の輪が広がっているようです。

今後もこの活動を継続し、本を読むことで家族の絆が深まるようにおすすめの本の紹介などとしてサポートしていきたいと思います。

市町村 日置市

所属名 上市来小学校

田代小学校図書委員によるみんなで最後のお話会



阿久根市立田代小学校の図書委員会は、3月に「卒業生を送る最後のお話会」をしました。6年生の委員長による多読賞の表彰は、最後の大事な仕事です。また、卒業生2人は、「6年間の読書のあしあと」として、「私の6年生のBook Best10」を、思い出の一言を交えながら発表しました。そして、図書委員全員で応援団の扇子や、問いかけカードなど小道具を使って、大型絵本の読み聞かせです。最後に、みんなで「アブラハムの子」を元気よく踊りました。手、足、頭、おしりと動かす部分が増えるたびに笑いが起こり、大盛り上がりでした。

このように、図書委員が頑張れる委員会活動であれば、きっと、本の世界への扉も子どもたち自身で開いていけるのではないかと思います。

市町村 阿久根市

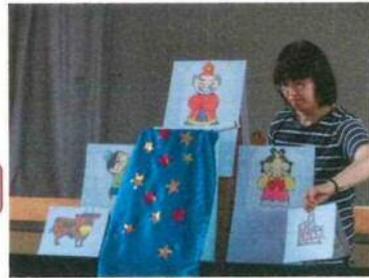
所属名 田代小学校



# おはなし クレヨン

レタスくん

トマトちゃん



手作りカードを使い  
子どもたちも歌で参  
加した楽しいお話し  
会！



オープニングトークは、ぼく  
たち二人にまかせてね。

阿久根市立山下小学校の保護者と卒業生の保護者で活動している読み聞かせグループ「おはなしクレヨン」は、学期に1回ずつ山下小学校で、お話会を開いています。手作り人形の「レタスくん」と「トマトちゃん」が登場すると、子どもたちは、大喜びです。大型絵本、エプロンシアター、手作りの紙芝居はもちろん手遊びや歌で盛り上げたり、クイズをしたり、毎回、楽しさ満載のお話会です。子どもたちの笑顔や真剣な表情を目の当たりにすると、準備の大変さも忘れてしまいます。これからも、山下っ子たちの心が豊かになることを願って、自分たちも楽しみながら活動を続けていけたらと思います。

市 町 村 阿久根市

所 属 名 山下小学校

## 出水市立野田中学校 「紹介しよう わたしの宝本」



何て紹介しようかな？

7月5日いよいよ「宝本」エピソードに取り組む生徒たち。それぞれ、家族との思い出の本を自宅から持って来たり、図書館や友だちに借りて印象に残った本を紹介したりと楽しみながら取り組みました。

←宝本エピソードに取り組む様子（3年生）

学校図書館での展示の様子→

昼休みなどにたくさんの生徒が見に来ていました。

「野田中宝本」の印鑑は  
読書担当教諭の手づくり。



野田中学校では、生徒会図書部が中心となって「紹介しよう わたしの宝本」と題し、7月初旬に「宝本」について全校生徒で取り組みました。初めての試みに、「宝本ってどんな本のこと？」と疑問を持つ生徒もいたため、事前に図書部員らが説明を重ねて、宝本を持ち寄ってエピソードを記入しました。生徒らは、お互いの宝本を見せ合い、「その本おもしろそうだね。」と語り合いながらにぎやかに取り組んでいました。

今回の「宝本エピソード」は、一部を学校図書館で展示したほか、親子の思い出が詰まったエピソードが多かったことから、行事などで展示して保護者の皆さんにも見ていただく計画です。「宝本」の紹介をきっかけに、家族で読書を楽しむ「家読」や、読書の幅が更に広げられるよう、これからも本とのつながりを提案していきたいと思ひます。

市 町 村 出水市

所 属 名 野田中学校